

令和2年度上大久保中学校だより

# 上中だより

## 第6号

令和2年9月1日(火)発行

### 学校教育目標

「温かい学校 感動あふれる学校」

さいたま市立上大久保中学校

〒338-0824 さいたま市桜区上大久保861-1 TEL855-3901

<http://kamiokubo-j.saitama-city.ed.jp>

「親切」

校長 堀田 明良

9月とはいえまだ暑い日が続いています。暑さに負けず咲き誇っている向日葵(ひまわり)と百日紅(さるすべり)が通勤途中に見られます。校長室でも朝から蝉時雨(せみしぐれ)が聞こえます。生徒の皆さん、8月の晴れた暑い日の登校時や下校時に、昇降口から正門にかけてのアスファルトが濡れていることに気がつきませんでしたか。本校本務員の佐久間さんが、少しでも暑さが和らぐよう、皆さんのために打ち水をしてくださっています。

先日、昇降口で大きな荷物を抱えて歩いていたら、ある先生が、「持ちましようか。」と声をかけてくれました。「ありがとうございます。大丈夫です。」と好意に対しお礼を述べました。温かい心遣いにうれしくなるとともに、学生時代の小さな出来事を思い出しました。当時剣道をやっていた私は、大きな防具袋を持って満員電車に乗らなくてはならないことがありました。なるべく混雑していない車両を探して乗るのですが、予想外の混雑にあってしまうことがありました。そのような時は、汗に濡れて重くなった防具の入った袋を両手や片手で持っていなければなりません。床に置いたり、肩に担いでいたりしていれば楽なのですが、他の乗客に迷惑が掛かってしまいます。人ごみにもまれ、電車の揺れでよろけないようにしながら20キロ以上ある防具袋を手で提げているので、腕がけいれんしてきます。同級生の中には乗客に降りる時、満員電車の腹いせに防具袋を蹴られたこともあると言っていました。その日は鉄道ダイヤの乱れでどの車両も混んでいました。仕方なく一人混んでいる車両に乗り、満員電車の中で重さに耐えながら手に防具袋をぶら下げていました。次の駅でさらに乗客が乗ってきました。その時、座っていた見知らぬ男性が私の防具袋をさりげなく取って無言で自分の足元に置きました。「ありがとうございます。」とお礼を言ったら、黙ってうなずきました。降りるときに再度お礼を言い、預かってくださった防具を受け取りました。その時、自分もこういうことのできる大人になりたいと思いました。

「親切」を辞書で調べると「相手の身になって、その人のために何かをすること。人情が厚いこと。思いやりがあって人のために尽くすこと。」と出ています。「親切」は漢字では“親を切る”と書きますが、そういう意味ではありません。「親切」の「親」は、「親しい、身近に接する。」という意味です。「親切」の「切」は、「心から」、「ひたすら強く」といった意味があります。「切実」「切に願う」というように使うことがあります。そんなところから「親切」という漢字には、「より親しい」という思いが込められています。

長い2学期、クラスや部活動で一緒に過ごしていれば、より親しい関係になり、絆も深まると思います。生徒の皆さんが心温まる「親切」を学校内外で見たり聞いたり感じられることを願っています。